

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577800315		
法人名	特定非営利活動法人 宅老所あじさい		
事業所名	グループホームあじさい		
所在地	山口県下関市豊浦町黒井1803番地		
自己評価作成日	平成23年2月12日	評価結果市町受理日	平成23年6月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を重視し、入所者の皆様が安心感を持って、自宅と変わらない生活ができるように心がけています。介護度等が年々高くなっていく中で、重度化や終末期の利用者様、家族が安心していただけるように医療機関と密に連携を図り全職員で支援方法を話し合い、個々の心身の状態に合わせた介護を日々検討し快適に生活できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念に基づいて、利用者が住み慣れた地域で安心して生き生きと自由に暮らせるように、利用者一人ひとりにそった個別ケアに取り組まれています。事業所の夏祭りに隣近所の人を招かれて、利用者や職員と一緒にバーベキューを楽しまれたり、消防避難訓練に地域の人に参加されるなど、地域との関わりを深めておられます。木造2階建ての民家を改築した事業所は、玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレなどの共有生活空間が、利用者がこれまで暮らされていた自宅の延長としての家庭的な雰囲気があり、利用者はそれぞれの居場所で穏やかに過ごしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あじさい法人理念に基づき、グループホームの職員同士が話し合いの上で事業所の理念を作成。玄関、事務所、食堂に掲示すると共に朝礼時に全職員で唱和し、理念の共有、実践につなげている。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくっている。理念を事業所内に掲示し、毎朝のミーティング時に唱和して確認し、利用者が自由な暮らしができるように全職員で共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(文化祭、敬老会、夏祭り)やお寺詣りなどに参加している。散歩や外出時には、出会った方へ積極的にあいさつし、交流に努めている。	自治会に加入し、地域行事への参加や事業所主催の夏祭り(バーベキュー)などで地域の人と交流している。近くのお寺に行ったり、散歩などで出会った人と会話するなど利用者が日常的に地域の人と交流できるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や清掃活動に参加したり、バーベキューや夏祭り、消防訓練を行い地域の人々に理解していただけるように努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に外部評価を実施する意義を理解してもらい、自己評価書を配布し、記入してもらっている。評価後は課題について職員との話し合いの場を設けている。	評価の意義を理解して、全職員で自己評価に取り組んでいる、外部評価結果について話し合い、自治会長を通して地域の人に消防避難訓練への参加を呼びかけ、協力を得て実施するなど具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、状況の報告、意見交換を行い改善に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、事業所の状況報告や活動報告、スライドで利用者の日常の様子を報告して意見交換している。出された意見はサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営や研修について、介護福祉課や地域包括支援センターに相談、連携をとっている。生活保護受給者の方について市の担当とも連携をとっている。	市の担当者や地域包括支援センターと連絡を取って、相談や情報交換をするなど協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の方針、マニュアル作成、社内研修の実施で全職員に正しく理解してもらい、拘束のないケアに取り組んでいる。日中は玄関に鍵をかけず、見守りながらも外出の際には、付き添い自由に動けるように取り組んでいる。	方針やマニュアルがあり、研修を実施して職員は正しく理解しており、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止対応マニュアルの作成や社内研修を実施、全職員、虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会など実施し全職員が学ぶ機会を持っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族との話し合いを持ち、十分な説明を行い理解、納得を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にアンケートを行ったり、玄関に苦情意見箱の設置、面会時や電話などで意見要望を聞くように努めている。また、第三者委員外部機関を明示し苦情処理手続きも明確に定めている。	アンケートや面会時、行事の時、電話等で家族から意見や要望を聞き運営に反映させている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。意見箱を設置している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、役職会議や職員会議、または社内研修を実施し、職員の意見や提案を運営に反映させている。	月1回の職員会議や役職会議の中で職員の意見や提案を聞く機会を設け、出された意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力、実績、勤務状況を把握するように努めている。また、向上心を持って働けるように目標の設定を行い業務に対して適切な評価をするように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回社内研修を行っている。社外研修も全職員が交代で参加している。各部所ごとに勉強会を実施し、働きながらトレーニングを進めている。	外部研修は勤務の一環として参加の機会を提供し、段階に応じて受講した職員は、復命報告し研修資料を閲覧できるようにして共有している。月1回事業所内研修を実施する他、各部所でミニ研修会を行うなど、働きながら学べるように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡協会・事業所連携就職支援事業やブロック研修会などに管理者・職員が参加して同業者との交流を図っている。また、相互訪問等を行い、情報交換等でサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とのコミュニケーションを重ねることで本人の困っていること、不安なこと要望等を引き出し、安心を確保する為の関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談や情報交換を行い、様々な要望や不安なことが解消できるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が何を必要としているのかを話を聞きながらよく考え、様々なサービスを提案し対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備・片付けを一緒に行ったり、昔の歌を教えてもらい一緒に歌ったりすることによって暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回「あじさいだより」を発行し、日常の様子などを知らせたり面会時や電話連絡を利用し家族の意向、要望などを聴く機会を作っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	機会があれば馴染みの場へ行く支援を行っている。	自宅周辺や、お宮、お寺などに出かけたり、知人や友人の来訪があり、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係、相性など把握し職員が間に入り、話題を提供したりレクリエーションを行い、利用者同士が関わりあえるようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても気軽に相談など応じられる体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から希望や意向を聴き、職員会議などで情報を共有し、本人本位に暮らせるよう検討している。	日々の関わりの中で利用者から聞きとった言葉を生活記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報を得て本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて知り得た生活歴や生活環境など、全職員が把握できるように書類を事務所に置き、いつでも見られるようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタル測定し、健康状態をチェックしている。また、日々の介護記録をもとに朝礼や職員会議など現状の把握する場を設けている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議で本人・家族の意向を尊重し、職員の意見やアイデアをは反映した介護計画を作成している。	把握している利用者の意向や家族の意見などを参考にして、ケース会議で話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。6か月ごとにモニタリングして見直しをする他、状況に変化が生じた場合はその都度見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルサイン、食事摂取量、日々の生活など毎日記録し、職員はそれらの記録に目を通している。朝礼やケース会議でも情報を共有し、介護計画や日々のケアに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から希望や意向を聴き、職員会議、ケース会議、個別会議で情報を共有し全職員が把握できるように努めている。本人本人に暮らせるように支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察に情報を提供し、理解を求めたり消防の方にも避難訓練を通して協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の通院支援や往診が受けれる体勢にしている。病状や本人・家族の希望を大切にしながら適切な医療が受けれるように支援している。また、往診日以外でも緊急等必要に応じ診察が受けれるように支援している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医となっている他、殆ど利用者が事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。受診の支援や協力医による月2回の往診、緊急時、必要時等の往診など適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名おり、日頃の情報や気づきを伝え相談しながら健康管理を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から医療機関との情報交換を図り、利用者が入院した際には面会に行き家族や病院関係者と情報交換や相談を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所で出来ることと出来ないことを十分に説明し、理解してもらうよう努めている。状態に変化があれば、その都度方針を話し合い、医師・家族・全職員が方針を共有しチームとして支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に行える事業所での対応について説明している。実際に重度化した場合は、家族や医師、関係者、職員等で話し合い、共有して取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	それぞれマニュアルを作成している。定期的に行ってはいないが、看護職員の下社内研修を行っている。	マニュアルがあり、ヒヤリはっと報告書に記録して職員会議で対応策を話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。行方不明については地域の見守りや声かけなどの協力が得られている。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、職員の役割分担など事務所に掲示している。また、消防の協力のもと地域の方にも参加してもらい、避難訓練を行っている。	マニュアルがあり、年2回避難訓練(夜間想定を含む)を地域の人の参加も得て実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修を通してプライバシーについて全職員が理解し、利用者を人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れず言葉かけや対応をしている。	マニュアルがあり、事業所内研修を行い、職員は正しく理解して、利用者を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録等は取り扱いに気をつけている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の前には必ず声掛けをし希望を聴くようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせるように努め散る。何かをするときは事前に希望を聴き、なるべく希望に添えるように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選べる方は選んでもらっている。困難な方には組み合わせ等、気を配り職員の方で選んでいる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事のときには行事食を取り入れ、季節感を感じながら楽しく食事をしていただいている。食事の片づけは利用者と職員と一緒にしている。時には準備も一緒に行っている。	食事は配食であるが、盛りつけ、台拭き、下膳、後片づけなど、できることを利用者と一緒に行っている。誕生会や行事に合わせて利用者の好みのものや季節を感じられるメニューにして食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日記録している。水分をあまりとられない方はお好きな飲み物を用意したりゼリーにして出したりと工夫している。食事量が減っている方には食事の形態を変えたりなど職員で話し合いながら工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをおこない職員と共に口腔ケアを行っている。出来るところはしてもらい、最後は必ず職員が口腔内を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を作成し、個々の排泄パターンを把握したうえで声掛けや誘導を行いトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	排泄表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量のチェックや排泄表で排便チェックを行い、排便の無い方には腹部マッサージなどを行い、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前には必ず声掛けし、本人の意思によって入浴ができるように支援している。その日の体調によってシャワー浴や清拭を行い、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は毎日、10時から17時まで可能で、利用者一人ひとりの希望や状態、タイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。入浴したくない人や体調に応じて清拭、足浴、シャワー浴、ドライシャンプーなどで対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、睡眠パターンを把握したうえで睡眠を促している。冬場は湯たんぽを使用し気持ちよく眠れるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理票を作成し、用法・用量・効能を全職員が理解し症状の変化があれば医師に相談している。服薬や職員が必ず名前と時間を確認し、飲み込みも確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味、得意なことを把握し歌が好きの方、家事が得意な方、お話し上手な方など職員のこえかけにて楽しい日々を過ごせるように支援している。	昔の歌を歌ったり、新聞を読んだり、テレビを観たり、季節の飾りづくり、草とり、家事など、利用者のできること、したいことの場面づくりして、楽しみごとや喜び、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は天気の良い日に散歩に出たり、季節の行事として花見やお祭り、初詣など外出する機会を作っている。	散歩や季節ごとの花見、みかん狩り、イモほりなど戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で管理ができる方には希望に応じてお金を所持出来たり使えるようにしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は本人に代わり、お話ができるようにしたり、利用者に届いた手紙は直接渡したりしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室や仏間があり、利用者にとって落ち着ける環境になっている。食堂には季節に応じた飾り付けをし、毎日気持ちよく過ごせるように清潔の保持に努めている。	事業所は民家を改築したもので、共有生活空間は、自宅の延長として過ごせる場として、家庭的で落ち着ける雰囲気がある。玄関や食堂、居間に季節の花が飾られ、ソファや椅子が置かれて居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台所と居間が2間続きでスペースが狭い為、独りになることは難しいが食卓の位置を替えたり、ソファが置いてあったりし、思い思いに過ごせるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具など持ち込みは自由で本人の使い慣れたものを使用している。	衣装ケース、小ダンス、椅子など使い慣れたものや好みのものを持ち込んで安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂場に手すりを設置したり、屋内を移動するのに邪魔なものは置かないなど安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームあじさい

作成日：平成 23年 6月 11日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	30	利用者の生活に、職員以外の方の視点や関わり等が加わることによって、より豊かな暮らしや、生きがいにつながって落ち着いた暮らしができるのではないか。	定期的なボランティアの受け入れ。 趣味的なことを指導してくれるボランティアの受け入れ。	ボランティア団体や婦人会等に情報を提供し、協力をお願いする。 地域の行事に参加し、交流を図りながら協力をお願いする。	1年
2	36	年二回避難訓練を地域の人達の参加も得て行っているが、今年新たに通報装置やスプリンクラーも設置して災害への備えを充実させてきている中、職員も危機意識を持ちながら、仕事をしていけるようにしたい。	利用者が安全に避難できる方法と、通報装置・スプリンクラーの正しい操作を全職員が身につける。	3ヶ月に一回避難訓練を行う。 通報装置・スプリンクラー（主に水の止め方）の点検に業者が来た時に、操作方法を確認する。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。